

令和7年度 収蔵資料展示 —新着資料を中心に—

展示目録

令和7年5月8日(木)から6月29日(日)まで

神奈川県立公文書館 1階展示室

番号	資料名	内容等	年代	資料ID等
新着歴史的公文書 —令和4～5年度収集資料—				
1-1	設立に伴う文書事務の変更についての文書課との検討事項	公文書館の開館に伴って、県の文書管理は大きく変わりました。大きな変更点としては、「永年保存」の保存期間の区分が廃止され、最長で「30年保存」となり、県の各機関が作成・収受した文書は、その保存期間満了後、全て公文書館に引き渡されることとなりました。本文書は、その取扱い変更に係る文書課との申合せ事項の決定に関する起案文書です。	平成4 (1992)年	1202301571
1-2	部活動方針策定	県教育委員会による、部活動の在り方に関する方針を決定した起案文書です。向かって左が県としての方針、右が県立学校の方針です。印を捺している所属の違いから、各方針が対象とする学校の違い等がわかります。	平成30 (2018)年	1202291565
1-3	「かながわ高齢者保健福祉計画」の改定について	平成27(2015)年に県が策定した「かながわ高齢者保健福祉計画」の改定に係る文書です。この起案文書は重要な計画の改定に係る文書であることから、知事まで回議されています。印鑑の数が多く、一目で文書の重要性が伝わってきます。	平成30 (2018)年	1202301026
1-4	当初予算査定意見書	県のような業務の中でも主要な位置を占める、予算編成に関する公文書です。各年度の予算は各所属と財政部門の調整(査定)により決定し、その結果・経過を記録した公文書として、本資料のような簿冊が作成されます。	平成4 (1992)年	1202301631
1-5	監査資料	地方自治法に基づいて行われる定期監査は、県の全機関が対象となります。したがって、監査に関する公文書も毎年度、全機関で作成されますが、当館では定期監査の主務課である監査事務局の文書のみを保存し、それ以外は原則として廃棄しています。監査に関する公文書は、対象年度の決算や事業の状況などを把握する上で大変有用な資料です。	平成29 (2017)年	1202301075
1-6	事務引継書	本県では、所属長以上の職位にある者の事務引継書は、原則として歴史的公文書となります。県職員はその異動時に事務引継書を作成して後任に担当事務を引き継ぎますが、所属長ともなると様々な資料が綴られて分厚くなります。事務引継書には作成時点における懸案事項等がまとめられるため、当時の県の考え方等を知ることができる重要な資料です。	昭和22 (1947)年 ／平成3 (1991)年	1202308252 1202305156
1-7	平成23年度〔東日本大震災 支援活動記録〕	東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)の発生後、本県からも被災県の支援のため、多くの職員が派遣されました。本資料は、宮城県石巻市の避難所運営のために派遣された職員の手持ち資料とみられ、派遣職員向けの手引きや記録用のメモなどが綴られています。	平成23 (2011)年	1202291513
1-8	平成28年度 リオ視察関係	平成27年6月、東京オリンピック2020大会におけるセーリング競技の江の島開催が決定しました。これを受けて、本県では黒岩知事以下担当部署の職員等が平成28年の夏季五輪リオ・デ・ジャネイロ大会の視察を行いました。本資料はその準備や視察結果報告に関する文書の綴りです。	平成28 (2016)年	1202203675 1202203676
1-9	令和元年度 新型コロナウイルス相談記録	令和2年に始まったコロナ禍。本資料は、保健福祉事務所によるその最初期の相談記録です。1月15日の国内最初の感染者確認、2月3日のクルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号の横浜港入港などを皮切りに、各地の保健福祉事務所等では対応に追われることになります。	令和2 (2020)年	1202307097 1202307098

番号	資料名	内容等	年代	資料ID等
1-10	臨時雇に関する綴	本資料は、令和5(2023)年に人事課から引き渡された文書で、今でいう非常勤職員の雇用に関する文書の綴りです。本県では、所蔵の少ない昭和30(1955)年以前に作成・収受された公文書は、あまねく歴史的公文書となり、当館の書庫で永久に保存されます。	昭和15 (1940)年	1202301700
1-11	本籍地名簿 高座郡相模原村	第二次世界大戦に従軍した軍人・軍属を本籍地ごとに記録した名簿です。個々の軍人・軍属の氏名・本籍地・生年月日・兵種等の情報に加え、上部には最終的な処決の状況が記載されています。動員の状況やその結果を地域ごとに把握できる貴重な資料ですが、「戦死」「戦病(傷)死」「生死不明」の記述が目立ち、こうした資料からも多くの方が戦争の犠牲になったということがわかります。	昭和20 (1945)年	1202308124
1-12	連合国軍最高司令部通牒徹底方に関する書類	令和4(2022)年度に県立大磯高校から引き渡された公文書で、県を經由して通知された、連合国軍最高司令官総司令部(GHQ)からの通知類の綴りです。同校の教職員で回覧後に綴ったもので、価値観が180度転換した、占領期の教育活動の様相を伝える貴重な資料です。	昭和23 (1948)年	1202291671

旧農業総合研究所文書

2-1	昭和25年度 當場員、巡回記録 観察員活動状況記録	神奈川県立農事試験場の観察員による気象報告、病虫害発生状況等の記録日誌。観察員は地域ごとに配置され、定期的に作物の状況を記録報告し、または天候不順の節や病虫害発生、災害時の被害等を記録し報告する人たちです。	昭和25 (1950)年	1202390101
2-2	自大正9年至昭和14年二十ヶ年野鼠窒扶斯菌第1綴	明治32(1899)年に日本にペストがもたらされ、大正期にかけて各地で猛威を振るいました。これを媒介する野鼠は農作物を荒らす害獣でもあり、チフス菌による駆除が行われます。旧農総研ではチフス菌を培養し、農家に配布しました。	大正9 (1920)年 ～昭和14 (1939)年	1202390188
2-3	大正10年・大正11年 試験完結書類 第1	旧農総研では、病虫害予防のための試験が行われていました。例えば「水稻耐病性品種試験」では、コメの品種ごとに肥料の違い、除草の仕方による影響などを調べました。	大正10 (1921)年 ～大正11 (1922)年	1202390378
2-4	大正12年春 馬鈴薯設計調査	馬鈴薯(じゃがいも)の生育状況を、種類ごとに比較試験した記録。多品種を素材として、肥料の種類による違いで試験しています。発芽の日付から始まり、色味や大きさなどの生育観察等を記録しています。	大正12 (1923)年	1202390180
2-5	自昭和10年 旬別気象統計	毎月を上・中・下旬にわけ、各旬の平均気温、最高気温、最低気温、降水量、日照時間を記録しています。昭和10年から同34年までが記録され、農作物に影響の大きい天候に関するデータとなっています。	昭和10 (1935)年 ～昭和34 (1959)年	1202390317
2-6	昭和23年度 「トビロウカ」異常大発生に関する参考資料	昭和23年、害虫「トビロウカ」が異常発生して、県内農家に大きな被害がおよびました。旧農総研は、この被害状況と原因を探るべく、調査に乗り出しました。本資料はその報告書で末尾に被害分布図をつけ、原因としてアイオン台風以後続いた気象状況が、発生蔓延に好適だったと判断しています。	昭和23 (1948)年	1202390198
2-7	昭和23年度 暖冬異変に関する資料綴	昭和23年度は、12月中旬から2月下旬にかけ、最高・最低気温が平年を大きく超え、暖冬異変となりました。旧農総研は、同24年の麦作等の農作物への影響予想や生育状況、対策のための資料作成を、農林省から依頼されました。	昭和24 (1949)年	1202390288

葛野重雄氏旧蔵資料

3-1	宿舍関係	横浜市は、集団疎開児童の宿舍として足柄上郡の国民学校や寺院の一面を借り受けました。本資料は各宿舍に割り当てる児童数や人頭割による借用料金表です。	昭和20 (1945)年	2202004001
3-2	宿舍借上ニ関スル報告	昭和20年6月19日、横浜市老松国民学校の湯本へ疎開する分団の長、梅野力哉氏は、児童の宿泊先の正眼寺と借り受け契約を結んだ旨を報告しています。	昭和20 (1945)年	2202004021

番号	資料名	内容等	年代	資料ID等
3-3	〔長導寺見取図・菅田東部会館見取図・専称寺観音堂見取図〕	三ツ沢国民学校池上疎開分団疎開児童の宿舎は、多人数を収容できる寺院の施設(観音堂)や会館等を借り上げて、用いられました。	昭和20 (1945)年	2202004031
3-4	〔休養室・芳盛寺宿舎見取図〕	富岡国民学校の土沢村分団は、青年会館内の休養室と芳盛寺を宿舎として借り受けていました。	昭和20 (1945)年	2202004034
3-5	宿舎修繕用資材調	疎開宿舎には旅館等もあてられました。箱根温泉旅館施設組合では、疎開児童を受け入れるにあたり、修理の必要な個所(畳表やガラス)について、組合旅館の修繕材料費の斡旋を横浜市長に依頼しました。この地域では、実に34校もの疎開児童分団を受け入れていました。	昭和20 (1945)年	2202004002
3-6	学童粉食原料集聚要項	粉食(葉や根、茎等を乾燥して粉にし、パンや団子状等にして食べるもの)を収集するため、原料となる植物の種類、処理法を記したものです。疎開児童の食生活の一端がうかがえます。	昭和20 (1945)年	2202004003
3-7	報告	8月15日に終戦を迎えると、疎開児童らは段々と各家に帰っていきました。本資料は児童らの帰宅後、宿舎等に残し置かれた荷物や残務処理の状況について報告されたものです。トラック一台分の荷物や、11月中に完了予定の残務処理等、児童らがあわただしく去っていったことがうかがえます。	昭和20 (1945)年	2202004007
3-8	〔学童疎開引上げ後残務整理ノ為メノ借入宿舎調・荷物未輸送調〕	疎開児童が去った後、担当者らは宿舎を借りて残務処理をしていたことがわかります。荷物も貨物自動車1～3台分ほどが残っているようで、横浜市のトラックを要望したり、駿豆バスや疎開の後援会長の斡旋による車等、官民あげての疎開事業だったことがわかります。	昭和20 (1945)年	2202004008
3-9	神奈川県教員養成大学設立促進について	神奈川県教員養成大学設立促進協議会(期成会の前身)作成した冊子。当初の教員養成大学誘致運動には、国立か県立大かの議論や、運動に対する旧制師範教育の復活との批判があったことがわかります。	昭和44 (1969)年	2202004511
3-10	国立神奈川教育大学(仮称)設置について(要望)	教員養成大学の早急な設立を要請する理由が記されています。毎年県人口が20万人ずつ増加し、それに比例する児童数増加に教員数が対応できないと考えられていました。	昭和46 (1971)年	2202004506
3-11	国立神奈川教育大学設置促進期成会記録	地元選出の内藤誉三郎議員との会談要録。候補地が4か所あり、本県も候補入っているが力でないこと、土地問題等についてのアドバイスが記録されています。	昭和48 (1973)年	2202004546
3-12	国立神奈川教育大学設置促進期成会理事役員会(次第・資料)	地元選出の河野洋平議員との会談要録。国立大学設立に関する国の姿勢や、誘致運動への助言がされています。	昭和50 (1975)年	2202004570
3-13	第84回国会衆議院文教委員会議録第13号	衆議院文教委員会にて社会党所属衆議院議員小川仁一委員が、上越・兵庫教育大学の設立に関して、旧師範制度の復活との懸念を表明しています。こうした批判は、全国的に広まっていたようです。	昭和53 (1978)年	2202004628
3-14	活動報告及び県との話し合い要旨	旧師範制度との批判は期成会にも影響し、活動の鈍化と国立神奈川教育大学設立のタイミングの遅れとなり、県からは「教員養成問題も含めた教育全般の問題を研究協議する会」にするのがよいのではないかと勧告されます。	昭和55 (1980)年	2202004648
3-15	国立神奈川教育大学設置促進期成会理事会(次第・資料)	4月30日の役員・理事会にて、期成会を発展的に解散し、新たに教員養成問題を含め教育全般の問題を研究討議する会の結成を確認、6月4日の総会で決議されました。この年の8月31日、期成会は正式に解散となりました。	昭和55 (1980)年	2202004652
占領軍返還文書				
4-1	「占領軍返還文書」が収納されていた箱	当館で整理を行う前に「占領軍返還文書」が収納されていた箱です。箱の側面や上部には様々な情報が記載され、箱自体が資料の伝来経緯を伝える「資料」として、重要な役割を果たしています。	(昭和)	-

番号	資料名	内容等	年代	資料ID等
4-2	自明治6年至明治20年 外国旅券下付表	神奈川県が作成した、パスポートの発行台帳です。本資料は当館が所蔵する外国旅券下付表のうち、最も古いものになります。本資料内には、新一万円札の図柄に採用された、「渋沢栄一」の名前を見つけることができます。明治10(1877)年の清国上海渡航に係るもので、三井物産創設者の益田孝とともに渡ったことがわかります。	明治6 (1873)年	1202390010
4-3	昭和12年 外国旅券下付 表 移民・非移民	外国旅券下付表は、明治6(1873)年以降、欠年も少なからずありますが、昭和17(1942)年までを所蔵し、その多くが移民と非移民(視察・商用等)に分冊されています。かつて旅券(パスポート)は出発港の所在地で発行されていたこともあり、これらの資料は、横浜港から太平洋を横断して旅立った、多くの人々の旅の記録と位置付けることができます。	昭和12 (1937)年	1202390047 1202390048
4-4	昭和20年8月25日現在 在留外国人名簿	敗戦直後の昭和20年8月25日時点で県内に在留していた外国人の名簿です。住所・職業・氏名・年齢・健康状態等が国別に記載されています。中華民国人を除く外国人の多くは、現箱根町に多く疎開させられていたため、住所表記には仙石原や強羅といった地名が目につきます。	昭和20 (1945)年	1202390065

米国国立公文書館(NARA)写真部所蔵神奈川県関係写真資料

5-1	マッカーサー元帥、厚木 飛行場到来1 (写真資料 X-0449)	昭和20年8月30日、厚木飛行場に降り立ったダグラス・マッカーサー(中央でコーン・パイプをくわえた人物。彼は1944年12月18日に「陸軍元帥(General of Army)」に任官されました)。以後、昭和26年4月16日に離日するまでの約6年間、GHQ(General Headquarters 連合軍最高司令官総司令部)の最高司令官として、日本占領の陣頭指揮に当たります。	昭和20 (1945)年	4202400004 (アルバム No.04)
5-2	マッカーサー元帥、厚木 飛行場到来2 (写真資料 X-0448)	厚木飛行場でマッカーサー元帥を出迎える、合衆国陸軍第8軍司令官ロバート・マイケルバーガー中將(画面中央の人物)。占領政策の決定機関であるGHQに対し、米第8軍は、その指揮下で日本占領の実務を担う実行部隊として治安維持や復興支援などに当たりました。朝鮮戦争勃発にあたっては米軍の主力として投入され、以後朝鮮半島(韓国)に駐留を続けています。	昭和20 (1945)年	4202400004 (アルバム No.04)
5-3	東條英機元首相自殺未遂 1 (写真資料 X-0026)	イギリスの新聞記者を案内して東條邸を訪問していた『科学朝日』の記者が、銃弾が心臓を逸れて瀕死状態の東條元首相に寄り添い、「一発で死にたかった。」に始まる「最後の言葉」を聞き取り、それが写真入りの特ダネとして翌朝9月12日付け『朝日新聞』の朝刊に掲載されました。	昭和20 (1945)年	4202400001 (アルバム No.01)
5-4	東條英機元首相自殺未遂 2 (写真資料 X-0027)	隣家の医者への応急手当を受けた後、横浜市本牧にある大鳥国民学校(現・横浜市立大鳥小学校)に設置された米軍の野戦病院(第98エヴァキュエーション・ホスピタル)に搬送・到着(発砲から約5時間後の21時40分)し、血漿の投与を受ける東條元首相。	昭和20 (1945)年	4202400001 (アルバム No.01)
5-5	BC級戦犯横浜裁判1 (写真資料 X-0311)	戦犯容疑者は巣鴨刑務所に拘留され、A級戦犯の裁判は東京・市ヶ谷の旧陸軍士官学校講堂で行われましたが、BC級戦犯の裁判は、横浜地方裁判所(横浜市中区日本大通)で行われました。その理由は、日本占領を担当する米第8軍司令部が横浜税関ビルに置かれており、横浜地裁の目と鼻の先にあったからとする説があります。	昭和21 (1946)年	4202400003 (アルバム No.03)
5-6	BC級戦犯横浜裁判2 (写真資料 X-0339)	戦犯容疑者の多くを占めるのは「俘虜(捕虜)の虐待・虐殺」です。日本は、ジュネーヴ条約(赤十字条約)の一つである「俘虜の待遇に関する条約」に署名はしましたが、軍部・枢密院の反対で批准していませんでした。このため、参謀本部や軍令部に条約への意識が薄く、指示がまちまちになったり、各部隊に捕虜の人権への理解が届かなかつたとされます。	昭和21 (1946)年	4202400003 (アルバム No.03)
5-7	昭和天皇の地方巡幸の嚆 矢・神奈川県への行幸1 (写真資料 X-1069)	行幸1日目(2月19日)に訪問した昭和電工川崎工場にて。(説明・案内者は、昭和電工社長・森暁氏、同工場長・渡瀬完三氏、同技師長・中村健次郎氏、川崎市長・江辺清夫氏)	昭和21 (1946)年	4202400009 (アルバム No.09)

番号	資料名	内容等	年代	資料ID等
5-8	昭和天皇の地方巡幸の嚆矢・神奈川県への行幸2 (写真資料 X-1067)	行幸1日目(2月19日)に訪問した昭和電工川崎工場にて。(説明・案内者は、昭和電工社長・森嶋氏、同工場長・渡瀬完三氏、同技師長・中村健次郎氏、川崎市長・江辺清夫氏)	昭和21(1946)年	4202400009 (アルバム No.09)
5-9	昭和天皇の地方巡幸の嚆矢・神奈川県への行幸3 (写真資料 X-0224)	行幸1日目(2月19日)に訪問した横浜市復興局屋上から戦災復興状況を視察する昭和天皇(傍らで説明するのは横浜市長・半井清氏)	昭和21(1946)年	4202400002 (アルバム No.02)
5-10	昭和天皇の地方巡幸の嚆矢・神奈川県への行幸4 (写真資料 X-0218)	行幸2日目(2月20日)に訪問した厚生省浦賀引揚援護局にて。(説明・案内者は、援護局次長・豊原道也氏、横須賀地方復員局長官・古村啓蔵氏、関東上陸地支局長・重信吉固氏、横須賀市長・梅津芳三氏)	昭和21(1946)年	4202400002 (アルバム No.02)
5-11	昭和天皇の地方巡幸の嚆矢・神奈川県への行幸5 (写真資料 X-0704)	行幸2日目(2月20日)に訪問した浦賀引揚援護局にて。(説明・案内者は、援護局次長・豊原道也氏、横須賀地方復員局長官・古村啓蔵氏、関東上陸地支局長・重信吉固氏、横須賀市長・梅津芳三氏)	昭和21(1946)年	4202400005 (アルバム No.05)
5-12	昭和天皇の地方巡幸の嚆矢・神奈川県への行幸6 (写真資料 X-1070)	行幸2日目(2月20日)に訪問した鴨居援護所にて。(説明・案内者は、所長・内田定五郎氏)	昭和21(1946)年	4202400009 (アルバム No.09)
5-13	厚木飛行場に集結する占領軍軍用車両 (写真資料 X-0001)	『神奈川県史 通史編5』によれば、ポツダム宣言受諾から2週間後の昭和20年8月28日に米軍先遣隊150名が、次いで30日にはマッカーサー元帥とその幕僚が沖縄から厚木に到着しました。マッカーサーは直ちに横浜入りし、ホテル・ニューグランドを宿舍とし税関ビルに総司令部を置き、ここを舞台に日本の占領統治を始めることとなりました。	昭和20(1945)年	4202400001 (アルバム No.01)
5-14	占領軍による武装解除 (写真資料 X-0021)	武装解除により集められた日本軍の火器等(ライフル、軽機関銃、銃剣、刀剣)を横浜市内に設けられた集積場所に運ぶ占領軍兵士たち	昭和20(1945)年	4202400001 (アルバム No.01)
5-15	空襲の焼け跡の風景1 (写真資料 X-0017)	焼け跡が残る平塚市内を、牛を引いて進む人	昭和20(1945)年	4202400001 (アルバム No.01)
5-16	空襲の焼け跡の風景2 (写真資料 X-0089)	平塚空襲を受けた約2か月後の第二海軍火薬廠の様子。写真に映っているのは、NARAの英文キャプションによれば「powder house(火薬置き場)」と「acid plants(酸の製造工場群)」です。	昭和20(1945)年	4202400001 (アルバム No.01)
5-17	第二海軍火薬廠の製造部の7工場 (写真資料 X-0070)	第一工場 各種砲用及びロケット用無煙火薬の製造 第二工場 各種綿薬(硝化綿)の製造 各種混酸の調製 第三工場 各種酸の製造 廃酸の回収 石炭ガスの製造 第四工場 設備の設計、据付及補修 ユーティリティの管理 第五工場 各種機銃火薬の製造 溶剤の回収 第六工場 無煙火薬の貯蔵 砲用無煙火薬の選別以降の作業 第七工場 ニトログリセリンの製造 第一工場関係の火薬の配合混餅作業まで	昭和20(1945)年	4202400001 (アルバム No.01)
5-18	鎌倉大仏を見物する占領軍兵士たち (写真資料 X-0766)	京都・奈良・鎌倉など日本の古都の文化財が米軍の空爆を受けなかったのは、アメリカの美術史家ラングドン・ウォーナーが作成した『日本文化財リスト』のお陰、とする説があります。鎌倉駅前にはウォーナーを顕彰する碑が立っていますが、異論もあるようです。	昭和22(1947)年	4202400005 (アルバム No.05)
5-19	<参考資料> 『マッカーサー回想記』朝日新聞連載記事切抜	ダグラス・マッカーサーが死の半年前の1963年9月に原稿を書き終えたという回想記は、日本では朝日新聞社が独占的に版權を取得し、昭和39(1964)年1月6日から同年6月23日まで新聞紙上に連載されました。序文の中でマッカーサーは「この回想記は歴史ではなく、自叙伝でもなく、また日記でもない。しかし、その全部を少しづつ兼ねている。」と述べています。	昭和39(1964)年	4199400526
5-20	<参考資料> 『朝日新聞』昭和20(1945)年9月12日付紙面記事	昭和20年9月11日、GHQは、ポツダム宣言でも占領政策の柱の一つとして挙げられていた戦争犯罪人の断罪を進めるべく、東條英機元首相以下13名の逮捕を命じました。同日夕刻、世田谷区用賀の自宅にいた東條元首相は、来訪した米軍憲兵から逮捕・拘引を求められた直後、室内でピストル自殺を図ります。	昭和20(1945)年	朝日新聞クロスサーチでプリントアウト(パブリックドメイン)

番号	資料名	内容等	年代	資料ID等
5-21	<参考資料> 茶園義男編・解説『BC級戦犯横浜裁判資料』不二出版	東條元首相など「平和に対する罪」に問われたA級戦犯とは別に、捕虜虐待や市民への非人道的行為などの「通例の戦争犯罪」「人道に対する罪」の容疑に問われた戦犯に対する責任追及は、BC級戦犯裁判として横浜地方裁判所で審理が進められました。	昭和60 (1985)年	3199503050
5-22	<参考資料> 『神奈川新聞』昭和21年2月20日付と2月21日付の紙面記事	戦後初の天皇行幸は神奈川県下で、昭和21年2月19日と翌20日の二日間にわたって行われました。『昭和天皇実録』によれば、地方巡幸に際しては宮内省の方針として「可能な限り間近く奉拝の機会を設け、天皇と民衆の接する機会を多からしむるように図り、御服も御平服をお召し頂くこととした。」とあります。	昭和21 (1946)年	マイクロフィルム(閲覧室)
5-23	<参考資料> 『昭和天皇実録 第10』東京書籍	崩御の明くる年の平成2(1990)年から宮内省書陵部は昭和天皇の伝記(実録)の編纂を開始しました。「昭和史ではなく、昭和天皇の生涯の言動を確実な記録・文書を基に叙述することに徹する」との編纂方針の下、24年5か月かけて、全61冊1万2,137ページ(B5判の和製本)の『昭和天皇実録』が平成26(2014)年8月に完成しました。その後、東京書籍株式会社から全19巻で公刊されました。	平成29 (2017)年	4199203578
5-24	<参考資料> 「昭和天皇神奈川県行幸関係県内調査表」(行政刊行物)	2月19日は午前中、昭和電工川崎工場、日産重工業横浜工場、午後には、神奈川県庁、昼食をはさんで稲荷台戦災者共同宿舎、横浜市復興局(元横浜市図書館二階)大口第二町会仮設住宅(説明は、神奈川県知事・内山岩太郎氏)を視察。翌2月20日は、厚生省浦賀引揚援護局、国立久里浜病院、鴨居援護所、馬堀援護所を視察しました。	平成6 (1994)年	3200307112
5-25	<参考資料> 『市民が探る平塚空襲証言編』	海軍火薬廠の跡地に建つ平塚市博物館。同館の教育普及事業の一つとして発足した「平塚の空襲と戦災を記録する会」は、空襲体験者からの証言聞き取りの活動を進め、その成果を平成10年の『市民が探る平塚空襲 証言編』を皮切りに平成15年の資料編(一)、平成16年に同(二)、同18年に同(三)、平成27(2015)年に通史編1としてまとめ、公刊してきました。	平成10 (1998)年	3199801842
5-26	<参考資料> 『海軍火薬廠追想録』	海軍火薬廠は、大日本帝国海軍の兵器に使用する爆薬・火薬を製造していた兵器工場で、国内に宮城県船岡町、神奈川県平塚市、京都府舞鶴市の3か所がありました。「第二火薬廠」と称された平塚が本廠でしたが、昭和20(1945)年7月16日～17日の平塚空襲で米軍の主要な攻撃目標となり、壊滅的打撃を受けました。敷地及び建物は終戦後、占領軍により接収され、接収解除後は横浜ゴムに払い下げられ同社の平塚製造所となりました。	昭和60 (1985)年	3199407425
5-27	<参考資料> 『海軍火薬廠前史(日本火薬製造株式会社)』	海軍省海軍火薬廠の前身は、明治38(1905)年に英国のノーベル火薬株式会社、チルウォース火薬株式会社、アームストロング株式会社と日本政府が特約契約して設立された日本火薬製造株式会社(Japanese Explosives Company Limited.別称:日本爆発物株式会社)です。大正8(1919)年に日本海軍に買収され、海軍火薬廠が発足します。	平成2 (1990)年	3199356506

令和6年度アーカイブズ実習生による展示

6-1	【飯田藩士 西尾家文書】 〔徳川吉宗御内書〕	歳暮の祝儀として、飯田藩主 堀親蔵から8代将軍吉宗へ小袖が贈られたことに対する、吉宗からの返礼状です。御内書は“折紙”の様式がとられ、徳川将軍が発給する御内書には黒印が据えられています。	寛保2 (1742)年	2202204003
6-2	【神大寺村 北村家文書】 御触書	戊辰戦争が終結した後、新政府軍は様々な政策を行い、壬申年(明治5年)には鉄砲の売買や仕様を禁止しました。この鉄砲に関する政策を、神奈川県では神奈川県令(現在の県知事)であった陸奥宗光の名前で各村々に布達されています。	明治5 (1872)年	2199432035
6-3	川崎町、御幸村、大師町の合併意見書 (「各省稟申伺(川崎市)」所収)	大正13年1月16日に、川崎町・御幸村・大師町の各議長から神奈川県知事に提出された合併意見書。もともとこの地域では、水道問題等により町村の合併が望まれており、関東大震災の影響で計画が断行されました。同年6月に三町村は合併し川崎市が誕生しました。令和6(2024)年、川崎市は市制100周年を迎えました。	大正13 (1924)年	1199407856

番号	資料名	内容等	年代	資料ID等
6-4	国際音楽コンクール開催要領 (「昭和二十九年度 開国百年祭(二)」所収)	横浜開港百年を記念した開国百年祭において、日米共催の音楽コンクールが計画されました。横浜市警や駐留軍によるバンド演奏が予定されており、メインのど自慢では賞金が用意されていました(合格者賞500円、参加賞100円)。アコーディオンや三味線の伴奏者もいるなかで、当日学生たちは何の曲を歌ったのでしょうか。	昭和29 (1954)年	1199503006
6-5	湯立獅子舞 (『神奈川県文化財第5集』所収)	昭和35(1960)年までに神奈川県で指定された文化財について、県指定文化財の絵画・彫刻・工芸・民俗資料・無形文化財・史跡名勝・天然記念物と分野ごとに記載された書籍。写真は神奈川県足柄下郡箱根町宮城野の伝統芸能で、県指定の無形文化財です。釜の湯を人々にかけて清める湯立神事と獅子舞を組み合わせた芸能は大変珍しいものです。	昭和41 (1966)年	3199341297
6-6	公文書館建設にかかわる 人員計画表	平成元(1989)年8月から平成2年11月にかけて作成された、当館の人員計画表に関する公文書。当館のことが、当館が所蔵している資料からわかる、公文書館特有の資料です。この資料からは、正式名称の決定など公文書館開館に向けた肉付けの過程が見てとれます。	平成2 (1990)年	1202292036